

問 第7次鹿角市総合基本計画の最重要課題とする政策の内容は。

答 人口構造の若返りを目指すことを最重要課題として、また、若者世代の結婚支援や子育て支援の新たな時代に対応した少子化対策に取り組む。

水田農業対策について

問 令和3年産米は大幅な価格低下が予想されるが市の取り組みは。

答 令和3年産米については、需要に見合った生産を行うため、加工用米や新規需要米の作付け拡大に対し、10アール当たり最大1万5千円を上乗せして交付する。

新型コロナウイルス感染症による、本市の経済状況と今後の支援対策について

問 新型コロナウイルスの影響を受けた市内経済の状況と今後の支援策は。

答 最も影響を受けている観光業や飲食業は、昨年9月以降GOTトラベルとの相

乗効果により改善したものの、11月以降は、第3波の影響やGOTトラベルの停止により再び悪化している。宿泊業・飲食業への必要な支援策など、必要な経済対策を講じていく。

問 高齢者福祉対策について 高齢者の安心を確保する事業の活用状況は。

答 80歳以上の方の移動を支援するためタクシー料金の一部を助成する事業が最も活用されており、さらに多くの方に利用していただけるよう助成の世帯要件などを緩和していく。

質問した項目

■第7次鹿角市総合計画について ■新型コロナウイルス感染症による、本市の経済状況と今後の支援対策について ■水田農業対策について ■農業施設等の雪害対策について ■農業後継者対策について ■高齢者福祉対策について ■移住、定住の促進について



録画配信はこちらから

田中 孝一 議員
(清風会)



問 認定農業者や集落営農組織等が直面する課題に対し、早急に強化すべきと考えるがどうか。

答 これまでの支援と併せて県やJAなどと連携を図りながら引き続き相談・支援体制を強化していく。

人口問題について

問 市の人口は2040年に約2万人と想定されているが、どのように取り組んでいくのか。

答 人口減少により、少子化や高齢化が進み、経済・資源の循環が弱体化し、地域全体の産業や活力が低下することが懸念される。

質問した項目

■人口問題について ■農業の継承と農地の利活用について ■東北縦貫自動車道IC周辺の利活用について ■2025年問題について

田口 裕 議員
(無会派)



また、限られた財源の中で現在と同水準のサービスを継続することが困難になる場合も想定される。このため、市民のパートナーシップや自治体間の連携などによって節約される資源を地域が持つ潜在的な力を高める分野に

投入し、地域の活性化につなげていく。
2025年問題について
2025年問題を間近にして高齢者が安心して暮らせる取り組みが求められるかどうか。
答 2025年前後には後期高齢者数がピークを迎え、2040年には団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢化率は50%に近くと推計される。健康長寿の延伸を目指すとともに、要介護者や支援を必要とする高齢者を地域で支えるために事業者等と連携し医療・介護・予防など状況に応じたサービスが提供できるような地域包括ケアシステムの体制整備を促進していく。



録画配信はこちらから